

2024年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年1月31日

上場会社名 アイティメディア株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2148 URL <https://corp.itmedia.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 大槻 利樹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO 兼 管理本部長 (氏名) 加賀谷 昭大 TEL 03-5210-5012
 四半期報告書提出予定日 2024年2月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 <https://corp.itmedia.co.jp/ir/>
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	5,769	△10.1	1,564	△28.0	1,560	△27.8	1,051	△28.4	1,051	△28.4	1,051	△28.4
2023年3月期第3四半期	6,417	12.3	2,171	9.4	2,163	9.5	1,467	9.2	1,467	9.2	1,467	20.7

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	53.65	53.17
2023年3月期第3四半期	74.20	73.30

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	10,435	9,262	9,262	88.8
2023年3月期	11,158	9,429	9,429	84.5

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	14.00	—	14.00	28.00
2024年3月期	—	15.00	—	—	—
2024年3月期 (予想)	—	—	—	100.00	115.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有
 詳細は、添付資料10ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,320	△4.9	2,400	△18.1	1,620	△18.0	84.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無
 詳細は、添付資料10ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	20,877,500株	2023年3月期	20,865,900株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	1,653,098株	2023年3月期	1,072,098株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	19,590,824株	2023年3月期3Q	19,778,396株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）10ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・四半期決算補足説明資料は、2024年1月31日に当社ホームページ（<https://corp.itmedia.co.jp/>）に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	9
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	10
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	11
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	12
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	14
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(セグメント情報)	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の売上収益は、57億69百万円（前年同期比6億47百万円減、10.1%減）となりました。米国テクノロジー市場の成長鈍化を背景とした外資系顧客からの収益の減少、新型コロナの収束期待の高まりに伴う揺り戻しを背景としたデジタルイベント収益の減少および広告市場単価の低迷による運用型広告収益の減少により、売上収益が減少しました。

営業利益については、15億64百万円（同6億7百万円減、28.0%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上収益は57億69百万円（同10.1%減）、営業利益は15億64百万円（同28.0%減）、四半期利益は10億51百万円（同28.4%減）および親会社の所有者に帰属する四半期利益は10億51百万円（同28.4%減）となりました。

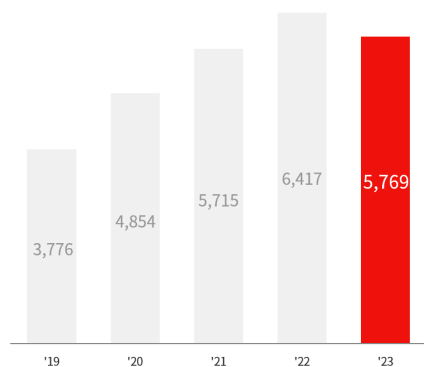
連結経営成績の概況

（単位：百万円）

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率（%）
売上収益	6,417	5,769	△647	△10.1
EBITDA ^{※1}	2,362	1,729	△632	△26.8
営業利益	2,171	1,564	△607	△28.0
税引前利益	2,163	1,560	△602	△27.8
四半期利益	1,467	1,051	△416	△28.4
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,467	1,051	△416	△28.4

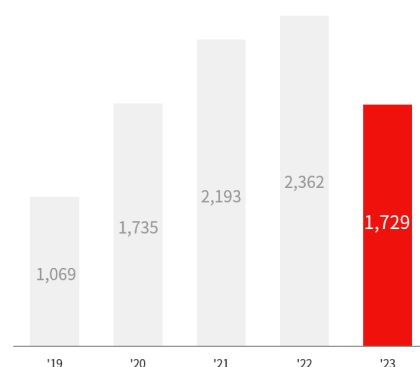
※1 EBITDA: 営業利益+減価償却費+無形資産の償却費+株式報酬費用+減損損失-その他の一時収益+その他の一時費用

■売上収益

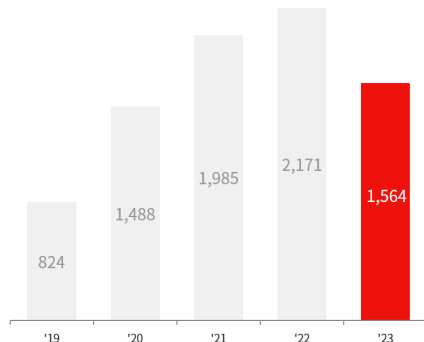


■EBITDA

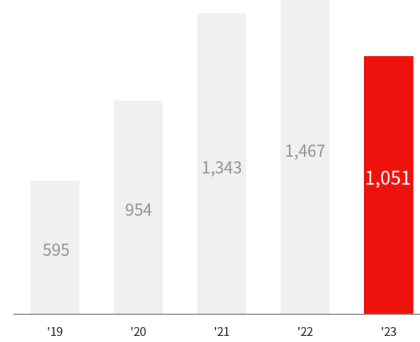
（単位：百万円）



■営業利益



■親会社の所有者に帰属する四半期利益



セグメント別の概況

当第1四半期連結会計期間より、「リードジェン事業」および「メディア広告事業」の区分から、「BtoBメディア事業」および「BtoCメディア事業」の区分へ変更しております。

従来、報告セグメントとして開示しておりました「リードジェン事業」および「メディア広告事業」について、業績管理体制の見直しに伴い、経営資源の配分の決定方法および業績評価方法の類似性・関連性に基づき、事業区分および事業活動の実態を適切に表すことを目的に、「メディア広告事業」に属していたBtoBメディア群を「リードジェン事業」と統合し、セグメント名称を「BtoBメディア事業」に変更しております。また、従来「メディア広告事業」に属していたBtoCメディア群を「BtoCメディア事業」として区分しております。

従って、当社グループは、事業部門を基礎とした対象顧客・サービス別のセグメントから構成されており、「BtoBメディア事業」と「BtoCメディア事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

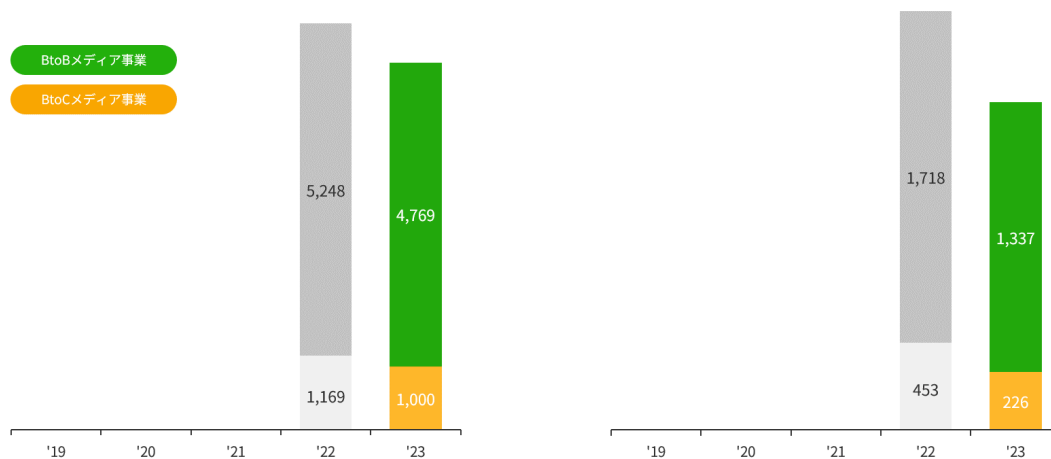
(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率(%)
BtoBメディア事業				
売上収益	5,248	4,769	△478	△9.1
EBITDA	1,879	1,480	△399	△21.2
営業利益	1,718	1,337	△380	△22.2
BtoCメディア事業				
売上収益	1,169	1,000	△169	△14.5
EBITDA	482	249	△233	△48.3
営業利益	453	226	△227	△50.1

■セグメント別売上収益

■セグメント別営業利益

(単位：百万円)



(注) セグメント別売上収益および営業利益は、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更したため、比較年度である前第3四半期連結累計期間より記載しております。

セグメント別売上収益の分解情報（収益モデル別）

(単位：百万円)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率(%)
BtoBメディア事業				
リードジェネレーション	2,153	2,150	△3	△0.1
デジタルイベント	1,362	1,097	△265	△19.5
広告	1,731	1,521	△210	△12.2
小計	5,248	4,769	△478	△9.1
BtoCメディア事業				
運用型広告	1,169	1,000	△169	△14.5
小計	1,169	1,000	△169	△14.5
合計	6,417	5,769	△647	△10.1

■当第3四半期のBtoBメディア事業

BtoBメディア事業の売上収益は、47億69百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

米国テクノロジー市場の成長鈍化によるマーケティング投資の抑制を背景に、外資系顧客からの収益が減少しました。

デジタルイベント収益は、受託型デジタルイベントを中心に需要が減少し、減収となりました。新型コロナの収束期待の高まりに伴い、フィジカルへの揺り戻しの影響が出ております。

当第3四半期に開催した主なメディア主催型デジタルイベント



ITmedia Security Week 2023 冬：ITmedia エグゼクティブ、ITmedia エンタープライズ、@IT
<https://v2.nex-pro.com/campaign/60341/apply>



ITmedia DX Summit Vol.18 ITmedia エグゼクティブ DXセミナー：ITmedia エグゼクティブ
<https://enq.itmedia.co.jp/on24u/form/executiveDX>



ITmedia DX Summit Vol.18（データ基盤/活用）：ITmedia エンタープライズ
<https://v2.nex-pro.com/campaign/60542/apply>



@IT Cloud Native Week 2023冬 -特別編集版-：@IT
<https://members05.live.itmedia.co.jp/library/NjE0MDQ%253D>



MONOist DX Forum 2023 冬 ～できるところから始める製造業DX～：MONOist
<https://members12.live.itmedia.co.jp/library/NjIwMTg%253D>



カーボンニュートラルテクノロジーフェア 2023冬：MONOist、EE Times Japan、EDN Japan、スマートジャパン
<https://enq.itmedia.co.jp/on24u/form/CNTF2023W>



サプライチェーンの革新：MONOist
<https://v2.nex-pro.com/campaign/60005/apply>

- ・リードジェン会員数は127万人となり、前年同期比8.6%増加しました。
- ・システム開発会社向けの案件紹介サービスを提供する発注ナビ株式会社では、加盟社が4,000社を超え、その影響力が拡大しております。
<https://hnavi.co.jp/info/2306211400/>
- ・発注ナビ株式会社では、新たにSaaSベンダー向けのマッチングサービスを開始しました。専門コンシェルジュが介在し、SaaSベンダーに「自社の強みに合った商談機会」を提供します。
<https://hnavi.co.jp/info/202401151400/>
- ・同サービスに関連して、当社と発注ナビ株式会社との共同事業として、SaaS製品情報サイト「ITセレクト powered by 発注ナビ」(<https://itselect.itmedia.co.jp/>)を開設しました。
<https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2024/01/15/itselect/>
- ・ChatGPTに代表される生成系AI技術への注目が高まっております。当社では、運営メディアにおいて、関連する記事の掲載本数を増加させるとともに、自らもその活用を図り、一部メディアでのコンテンツ制作において試験的な導入を開始しております。
https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2023/07/05/itmedia_ai/





BtoBメディア事業のメディア一覧

顧客分野	主要メディア・サービス	情報の内容	対象とするユーザー
IT&ビジネス分野	 https://techtarget.itmedia.co.jp/	IT関連製品やサービスの導入・購買を支援する情報並びに会員サービス	企業の情報システムの導入に意思決定権を持つキーパーソン
	 https://kn.itmedia.co.jp/		
	 https://hnavi.co.jp/	情報システム開発会社検索・比較サービス	企業情報システム開発の発注担当者
	 https://marketing.itmedia.co.jp/	デジタルマーケティングの最新動向や製品・サービスの情報	企業のマーケティング活動に携わる担当者
	 https://atmarkit.itmedia.co.jp/	専門性の高いIT関連情報・技術解説	システム構築や運用等に携わるIT関連技術者
	 https://www.itmedia.co.jp/news/		
	 https://www.itmedia.co.jp/enterprise/	IT関連ニュースおよび企業情報システムの導入や運用等の意思決定に資する情報	IT業界関係者、企業の情報システム責任者および管理者
 https://mag.executive.itmedia.co.jp/			
 https://www.itmedia.co.jp/business/	時事ニュースの解説、仕事効率向上に役立つ情報	20~30代ビジネスパーソン	

顧客分野	主要メディア・サービス	情報の内容	対象とするユーザー
	 https://monoist.itmedia.co.jp/		
	 https://eetimes.itmedia.co.jp/	エレクトロニクス分野の最新技術解説並びに会員サービス	エレクトロニクス関連の技術者
	 https://edn.itmedia.co.jp/		
産業テクノロジー分野	 https://techfactory.itmedia.co.jp/	製造業のための製品／サービスの導入・購買を支援する会員制サービス	製造業に従事するエンジニアや製品・サービス導入担当者
	 https://built.itmedia.co.jp/	建築・建設分野の最新技術解説並びに会員サービス	建築・建設業界の実務者
	 https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/	節電・蓄電・発電のための製品検討や導入に役立つ情報	企業や自治体の総務部、システム部、小規模工場経営者
	デジタルイベント	展示会やセミナーなどのイベントをオンラインで開催するサービス	

・当第3四半期における掲載記事のご紹介

(一部の記事においては、記事全文を閲覧する場合に会員登録が必要な場合がございます。)

メディア	記事内容
	<p>「Google Chrome」でパスワードがダダ漏れに そのカラクリとは？</p> <p>Webブラウザと拡張機能の組み合わせは便利だが、セキュリティホールを生み出してしまうこともある。Amazon.comやGmailのパスワードを第三者が盗む方法を研究チームが発見した。</p> <p>https://kn.itmedia.co.jp/kn/articles/2309/13/news014.html</p>
	<p>買収は完了したが……</p> <p>Broadcomが買収したVMwareを4部門に分割、深まる謎</p> <p>BroadcomによるVMwareの買収プロセスが完了した。だが、Broadcomは公表することなくVMwareを4つの部門に分割した。この4つの部門を束ねるリーダーは置いていない。VMwareはどう変わっていくのか。</p> <p>https://atmarkit.itmedia.co.jp/ait/articles/2311/27/news063.html</p>
	<p>まだChatGPTを使ってない人は「人生を悔い改めた方がいい」——孫正義節が炸裂</p> <p>「ChatGPTは何回もテレビにも新聞にも雑誌にも出ているのに、それを自分自身で毎日活用してないと。もうそれは電気を否定するか自動車否定する人と同じ」——10月4日に東京都港区で開催された「Softbank World」の基調講演で登壇したソフトバンクグループ代表取締役会長兼社長の孫正義氏は、“孫節”を効かせながら生成AIの威力と、AGI（汎用人工知能）が登場する未来について語った。</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2310/04/news175.html</p>
	<p>増えるIT人口</p> <p>「島根にPCあるワケない」から約20年 人口減でもIT人材が集まり続ける納得の理由</p> <p>「島根にパソコンなんてあるわけないじゃん」——。2000年に公開された、あるアニメ映画でキャラクターが発したセリフだ。それから四半世紀が経過しようとしている今、島根にはパソコンだけでなく、IT人材が続々と集まり始めている。</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2311/20/news040.html</p>

メディア 記事内容

2025年度に実用化後は外販も視野に
大成建設がリコーのプロジェクターで300インチ墨出し投影に成功 共同開発はBUILTがきっかけ？



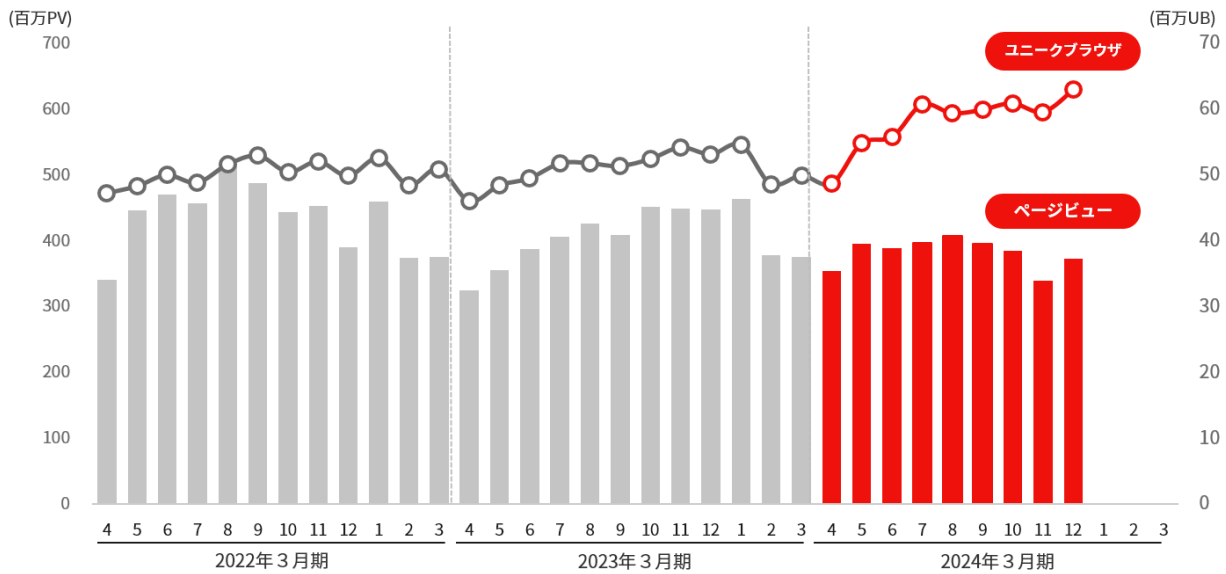
大成建設は、プロジェクションマッピングを利用した独自の墨出し技術「T-iDigital MARKING」をリコーとの共同で、投影面積を300インチに拡大させるなどの高度化を図った。プロジェクター技術を有するリコーが協力した契機となったのは、驚くことにBUILTのメールマガジンだったという。

<https://built.itmedia.co.jp/bt/articles/2310/31/news197.html>

■当第3四半期のBtoCメディア事業

BtoCメディア事業の売上収益は、10億0百万円（前年同期比14.5%減）となりました。広告市場単価の低迷により、運用型広告収益が減少しております。

- ・全社のメディア力を計る指標であるページビュー(PV)^{※2}、ユニークブラウザ(UB)^{※3}の当第3四半期連結会計期間での最高値はそれぞれ、ページビューが月間3.8億PV、ユニークブラウザが月間6,301万UBとなっております。



※2 ページビュー : あるウェブサイトがどの程度アクセスされているかを示す単位のひとつ。1ページビューとは、あるウェブサイトを開覧しているユーザーのブラウザに、そのウェブページが1ページ分表示されることを指します。通常、ウェブサイトを見ているユーザーは、サイト内の複数のページを閲覧するため、そのサイトを訪問した実質のユーザー数(ユニークブラウザ数)よりもページビュー数のほうが数倍多くなります。

※3 ユニークブラウザ : ウェブサイトがどの程度アクセスされているかを示す指標のひとつ。1ユニークブラウザとは、ある一定期間内にウェブサイトへアクセスされた、重複のないブラウザ数を指します。ウェブサイトの人気や興味の度合い、その推移を判断する指標として広く用いられています。

- ・ねとらぼの特化チャンネルである動物ニュースサイト「ねとらぼ生物部」が、2023年8月実績において月間1億ページビューを突破しました。動物たちのニュースだけでなく、動物保護をテーマにした記事や、読者からエピソードを募集した取材記事などのオリジナルコンテンツが支持を集めております。

https://corp.itmedia.co.jp/pr/releases/2023/09/14/nl_zoo_100m/

- ・AIを活用したメディア開発を推進するため、2023年10月より専任部門を設置いたしました。AIを活用して制作された記事は、2023年12月までの累計実績で1,090本に至っております。

[AI活用記事例] YOASOBIの「アイドル」、米ビルボード「Global Excl. U.S.」で首位獲得 日本語楽曲では史上初

<https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/2306/06/news168.html>

BtoCメディア事業のメディア一覧

顧客分野	メディア・サービス	情報の内容	対象とするユーザー
コンシューマ 一分野	 https://www.itmedia.co.jp/mobile/	パソコン、スマートフォン、AV機器等デジタル関連機器の製品情報、活用情報	デジタル関連機器等の活用に積極的な消費者
	 https://www.itmedia.co.jp/pcuser/		
	 https://www.itmedia.co.jp/fav/		
	 https://nlab.itmedia.co.jp/	ネット上の旬な話題の提供	インターネットユーザー

・当第3四半期における掲載記事のご紹介

(一部の記事においては、記事全文を閲覧する場合に会員登録が必要な場合がございます。)

メディア	記事内容
	<p>MVNOに聞く 堀江貴文氏が語る「HORIE MOBILE」を始めたワケ 「楽天モバイルからユーザーを取るのが一番簡単」</p> <p>2014年10月にMVNOのサービスを開始したエックスモバイルが、「ホワイトレーベル戦略」の一環として立ち上げたのが、「HORIE MOBILE (ホリエモバイル)」だ。その名の通り、HORIE MOBILEは事業家の堀江貴文氏がプロデュースするブランド。X-mobileの回線を活用しつつ、堀江氏が展開するサービスをバックにすることで、安さだけでなく魅力を出そうとしている。</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/mobile/articles/2309/07/news093.html</p>
	<p>iPadが実用的なHDMI入力の外部モニターになる iPadOS 17のUVCサポートで実現 実際に試してみた</p> <p>9月19日未明に配信が始まった「iPadOS 17」には、カメラの映像をUSB経由でやりとりする規格「USB Video Class」(UVC)のサポートが新機能として含まれている。USB Type-C搭載のiPadと“UVCに対応したHDMI to USBのキャプチャーデバイス”を活用すれば、iPadをHDMI入力の外付けディスプレイとして使えるようになる。</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/pcuser/articles/2309/21/news126.html</p>
	<p>「登山用インナーにヒートテックを選んでも良い？」よくある質問に元アウトドアショップ店員が回答 登山用インナーの正しい選び方を解説</p> <p>「登山用インナー」は、汗や熱気を素早く吸い取り、肌をドライに保つことで汗冷えや不快感を防ぎ、体力消耗や低体温症を予防します。そのため、登山をする上でインナー選びは重要です。</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/fav/articles/2311/17/news092.html</p>
	<p>一時は大量閉店も…… “約3年で店舗が倍”、バーガーキング躍進のワケ</p> <p>バーガーキングは2019年の大量閉店後、約3年間で100店舗から200店舗に増えています。</p> <p>https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/2311/11/news048.html</p>
	<p>動かないイモムシを助けて1年後のある日、窓の外がありえない光景に 感動サプライズが「アゲハ蝶の恩返し」と話題</p> <p>成長した美しい姿に癒やされます。</p> <p>https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/2310/17/news016.html</p>
	<p>【Amazonブラックフライデー】編集部員が選ぶ「買って良かったおすすめ商品」9選！【コスバ抜群のタオルやかんたん電動空気入れなど】</p> <p>Amazon.co.jpでは、11月24日(金)0時～12月1日(金)23時59分まで「Amazonブラックフライデー」を開催中です。年に一度のビッグセールで、さまざまな商品をお得に買えるチャンスです。そこで今回は、ねとらぼ調査隊編集部員が「Amazonブラックフライデーで買って良かったもの」を実際に使った感想を交えて紹介していきます。ぜひお買い物の参考してみてください！</p> <p>https://nlab.itmedia.co.jp/research/articles/2059667/</p>

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び資本の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は104億35百万円（前連結会計年度比7億22百万円減）となりました。主な増減の内訳は、現金及び現金同等物の減少6億27百万円、営業債権及びその他の債権の減少1億97百万円および使用権資産の増加1億65百万円であります。

負債合計は11億73百万円（同5億55百万円減）となりました。主な増減の内訳は、営業債務及びその他の債務の減少1億15百万円および未払法人所得税の減少4億29百万円であります。

資本合計は92億62百万円（同1億66百万円減）となりました。主な増減の内訳は、利益剰余金の増加4億81百万円および自己株式の取得6億51百万円であります。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末より6億27百万円減少し、73億50百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動の結果、増加した資金は8億8百万円となり、前年同四半期と比べ2億31百万円減少いたしました。主な内訳は、税引前四半期利益15億60百万円、減価償却費及び償却費1億66百万円、営業債権及びその他の債権の減少1億97百万円および法人所得税の支払額9億39百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動の結果、減少した資金は1億22百万円となり、前年同四半期と比べ89百万円減少いたしました。主な内訳は、有形固定資産及び無形資産の取得による支出1億59百万円および差入保証金の回収による収入49百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動の結果、減少した資金は13億13百万円となり、前年同四半期と比べ6億82百万円減少いたしました。主な内訳は、配当金の支払額5億67百万円、自己株式の取得による支出6億51百万円およびリース負債の支払額98百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は計画の範囲内で推移しているため、2023年7月31日公表の業績予想数値に変更はございません。

2024年3月期の期末配当予想につきましては、配当方針変更に伴い、85円増配の100円に修正し、当期の年間配当金は115円を見込んでおります。また、2025年3月期の年間配当金100円および2026年3月期以降の年間配当は連結配当性向70%以上を目標とすることを決定いたしました。

詳細につきましては、本日開示いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」および「配当方針の変更および期末配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

・配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想 (2023年4月28日公表)	15円00銭	15円00銭	30円00銭
今回修正予想		100円00銭	115円00銭
当期実績	15円00銭		
前期実績 (2023年3月期)	14円00銭	14円00銭	28円00銭

・今後の配当予定

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
2024年3月期（当期）	15円00銭	100円00銭	115円00銭
2025年3月期（来期）	—	100円00銭	100円00銭
2026年3月期以降	連結配当性向70%以上を目標とする		

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
(資産の部)		
流動資産		
現金及び現金同等物	7,978,694	7,350,925
営業債権及びその他の債権	1,339,026	1,141,868
その他の金融資産	500,000	500,019
棚卸資産	17,813	13,215
その他の流動資産	161,357	127,692
流動資産合計	9,996,891	9,133,721
非流動資産		
有形固定資産	175,734	154,871
使用権資産	—	165,770
のれん	443,471	443,471
無形資産	174,143	211,296
その他の金融資産	146,919	97,918
繰延税金資産	213,411	213,404
その他の非流動資産	7,684	15,148
非流動資産合計	1,161,364	1,301,882
資産合計	11,158,256	10,435,604
(負債及び資本の部)		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	431,256	316,093
リース負債	1,302	118,387
未払法人所得税	472,466	42,841
契約負債	238,046	236,831
引当金	12,000	—
その他の流動負債	513,428	364,603
流動負債合計	1,668,499	1,078,756
非流動負債		
リース負債	1,100	39,207
引当金	19,300	19,300
その他の非流動負債	40,149	35,818
非流動負債合計	60,549	94,325
負債合計	1,729,049	1,173,081
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	1,834,061	1,837,488
資本剰余金	2,135,830	2,134,981
利益剰余金	6,603,927	7,085,828
自己株式	△1,144,612	△1,795,790
その他の包括利益累計額	—	13
親会社の所有者に帰属する持分合計	9,429,206	9,262,522
資本合計	9,429,206	9,262,522
負債及び資本合計	11,158,256	10,435,604

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上収益	6,417,450	5,769,668
売上原価	2,245,424	2,162,633
売上総利益	4,172,025	3,607,035
販売費及び一般管理費	2,000,587	2,042,158
その他の営業損益(△は費用)	489	△844
営業利益	2,171,927	1,564,032
その他の営業外損益(△は費用)	△8,900	△3,361
税引前四半期利益	2,163,026	1,560,670
法人所得税	695,463	509,624
四半期利益	1,467,562	1,051,045
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	1,467,562	1,051,045
非支配持分	—	—
	1,467,562	1,051,045
親会社の所有者に帰属する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	74.20	53.65
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	73.30	53.17

要約四半期連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期利益	1,467,562	1,051,045
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
FVTOCIの負債性金融資産	—	13
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	—	13
その他の包括利益(税引後)合計	—	13
四半期包括利益合計	1,467,562	1,051,058
四半期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者	1,467,562	1,051,058
非支配持分	—	—
	1,467,562	1,051,058

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	合計	
2022年4月1日	1,825,609	2,108,276	5,143,378	△1,144,612	7,932,652	7,932,652
四半期包括利益						
四半期利益	—	—	1,467,562	—	1,467,562	1,467,562
その他の包括利益	—	—	—	—	—	—
四半期包括利益合計	—	—	1,467,562	—	1,467,562	1,467,562
所有者との取引額等						
新株の発行	7,860	7,695	—	—	15,555	15,555
剰余金の配当	—	—	△514,120	—	△514,120	△514,120
株式に基づく報酬取引	—	△6,099	—	—	△6,099	△6,099
所有者との取引額等合計	7,860	1,596	△514,120	—	△504,664	△504,664
2022年12月31日	1,833,470	2,109,872	6,096,820	△1,144,612	8,895,550	8,895,550

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	その他の 包括利益 累計額		
2023年4月1日	1,834,061	2,135,830	6,603,927	△1,144,612	—	9,429,206	9,429,206
四半期包括利益							
四半期利益	—	—	1,051,045	—	—	1,051,045	1,051,045
その他の包括利益	—	—	—	—	13	13	13
四半期包括利益合計	—	—	1,051,045	—	13	1,051,058	1,051,058
所有者との取引額等							
新株の発行	3,427	3,358	—	—	—	6,786	6,786
剰余金の配当	—	—	△569,143	—	—	△569,143	△569,143
自己株式の取得	—	△3,989	—	△651,177	—	△655,167	△655,167
株式に基づく報酬取引	—	△217	—	—	—	△217	△217
所有者との取引額等合計	3,427	△848	△569,143	△651,177	—	△1,217,742	△1,217,742
2023年12月31日	1,837,488	2,134,981	7,085,828	△1,795,790	13	9,262,522	9,262,522

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	2,163,026	1,560,670
減価償却費及び償却費	215,811	166,029
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加額)	73,143	197,157
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少額)	△109,513	△42,404
契約負債の増減額 (△は減少額)	△80,232	△1,215
その他	△165,211	△132,066
小計	2,097,023	1,748,172
利息及び配当金の受取額	219	229
利息の支払額	△121	△519
法人所得税の支払額	△1,057,111	△939,249
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,040,010	808,632
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△400,000	△400,000
定期預金の払戻による収入	400,000	400,000
有形固定資産及び無形資産の取得による支出	△32,986	△159,639
敷金及び保証金の回収による収入	—	49,000
その他	—	△12,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,986	△122,638
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株の発行による収入	15,561	6,855
自己株式の取得による支出	—	△651,177
配当金の支払額	△514,120	△567,084
リース負債の返済による支出	△132,996	△98,297
その他	—	△4,058
財務活動によるキャッシュ・フロー	△631,556	△1,313,763
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少額)	375,467	△627,768
現金及び現金同等物の期首残高	6,815,771	7,978,694
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,191,238	7,350,925

(5) 要約四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

第1四半期連結会計期間より、「リードジェン事業」および「メディア広告事業」の区分から、「BtoBメディア事業」および「BtoCメディア事業」の区分へ変更しております。

従来、報告セグメントとして開示しておりました「リードジェン事業」および「メディア広告事業」について、業績管理体制の見直しに伴い、経営資源の配分の決定方法および業績評価方法の類似性・関連性に基づき、事業区分および事業活動の実態を適切に表すことを目的に、「メディア広告事業」に属していたBtoBメディア群を「リードジェン事業」と統合し、セグメント名称を「BtoBメディア事業」に変更しております。また、従来「メディア広告事業」に属していたBtoCメディア群を「BtoCメディア事業」として区分しております。従って、当社グループは、事業部門を基礎とした対象顧客・サービス別のセグメントから構成されており、「BtoBメディア事業」と「BtoCメディア事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

各報告セグメントの会計方針は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、「営業利益」であります。セグメント利益の算定にあたっては、特定の報告セグメントに直接関連しない費用を、最も適切で利用可能な指標に基づき各報告セグメントに配分しております。セグメント間の売上収益は、市場実勢価格に基づいております。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下の通りです。

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	BtoBメディア	BtoCメディア	合計		
売上収益					
外部顧客からの売上高	5,248,137	1,169,312	6,417,450	—	6,417,450
セグメント間の売上高	—	—	—	—	—
合計	<u>5,248,137</u>	<u>1,169,312</u>	<u>6,417,450</u>	—	<u>6,417,450</u>
セグメント利益	<u>1,718,136</u>	<u>453,790</u>	<u>2,171,927</u>	—	<u>2,171,927</u>
その他の営業外損益（△は費用）					<u>△8,900</u>
税引前四半期利益					<u>2,163,026</u>

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結
	BtoBメディア	BtoCメディア	合計		
売上収益					
外部顧客からの売上高	4,769,387	1,000,281	5,769,668	—	5,769,668
セグメント間の売上高	—	—	—	—	—
合計	<u>4,769,387</u>	<u>1,000,281</u>	<u>5,769,668</u>	—	<u>5,769,668</u>
セグメント利益	<u>1,337,500</u>	<u>226,531</u>	<u>1,564,032</u>	—	<u>1,564,032</u>
その他の営業外損益（△は費用）					<u>△3,361</u>
税引前四半期利益					<u>1,560,670</u>